



事前予約でもかなりの数になったため、当初予定していた2クラスを一つ増やしての体制でした。しかし当日は、開始15分前には3クラスの用意していた席がほぼ埋まってしまふほどの盛況ぶりでした。

新学部
Topics

多文化社会学部

多文化社会学部公式ウェブサイト
<http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp>
 長崎大学 多文化社会学部 検索
 長崎大学新学部創設準備室
 TEL.095-819-2030 FAX.095-819-2235
 (E-mail) hss_info@ml.nagasaki-u.ac.jp

(平成26年度新設予定)

受験生はココが聞きたい!
多文化社会学部のツボはココ!

大盛況だったオープンキャンパスでの
学部概要説明と模擬授業

来年度に新設予定の長崎大学の新しい学部「多文化社会学部」。七月二十日に行われたオープンキャンパスで学部概要説明と模擬授業が実施されました。「なんでも相談室」の担当となり、受験生や保護者の方々の質問に答えた葉柳和則教授に話を聞きました。

「非常に熱心な高校生や保護者の方々が多かったですね。この学部のホームページや配布されている入試大綱、選抜方法などを事前にしっかり読み込んでから足を運んでいただいたようです。質問が多かったのは、入試の個別学力検査で行う『批判的・論理的思考力テスト』とはどういうものか、国語のテストや小論文とはどう違うのか、という問い合わせです。配点も高いので関心が高かったようです。このテストはセンター試験の問題とは解き方がかなり違います。例えば、一つの新聞記事を読ませて、『この主張が成り立つ条件は何だろうか。他にどんな資料が必要かと思うか』といったことを考えてもらいます。正解は一つだけではないし、出題者が考えもしなかった点を指摘すれば高い評価が与えられます。クリティカルシンキングと言われるものです。大学の学びは本来、一〇〇点に向かって正解を積んでいくという高校までの学びとは異なります。先生の言っていることを鵜呑みにするより、先生を乗り越えて、自分の領域を広げていくことが求められています。」

サンプル問題と解答例を
ホームページで公開

そうすると受験生はどういう勉強や対策をたてたらいいのでしょうか。

「新しい学部ですから、いわゆる『過去問(過去の入試で出た問題)』がない。それを不安に思う受験生もおられるようです。そこで、サンプルになる問題と解答例を作り、九月末にホームページで公開しました。他の大学で、新学部ができるときに、サンプル問題を作って公開したという前例はなく、画期的な試みです。」

なるほど、それは重要な手がかりになりますね。「はい、かなり不安は取り除けると思いますよ。これは実はそういう頭の使い方をする学生を求めているという、受験生へのメッセージでもあるのです。それからオープンキャンパスでよく聞かれたことの一つに、入学後の一人一人の学生に対する丁寧な指導体制はあるのかという点です。これはかなり自信のあるところなんです。一年のスタート時に新生全員が参加するトランジションプログラムがあるのですが、ここでは一〇〇人の学生を十人ずつのグループに分け、この十人に対して教養ゼミナールの先生、英語の先生、コーチングフェローという学生と先生をつないでいく立場の職員の三人がサポートします。」

つまり三人がチームを組んで十人の学生をみるんですか? 学生にとって行き届いたシステムですね。

「はい、これは国立大学の中でも非常に手厚くて文部科学省からも評価されています。長大の新学部は英語学部なの? という誤解がまだあるようですが、英語だけでなくグローバルに活躍するための専門性を身に付けていく学部であり、卒業時に求められるのがかなりハイレベル。そのために、入口の時点で丁寧な指導体制を整えているのです。」

「正式に設置が決定するまでは、あまり多くの情報が出せない状態ですが、可能な限りホームページなどで最新情報を発信していきたい」という葉柳先生。個性的な教員陣も着々と顔をそろえているようです。多文化社会学部、今後も目が離せません。

